

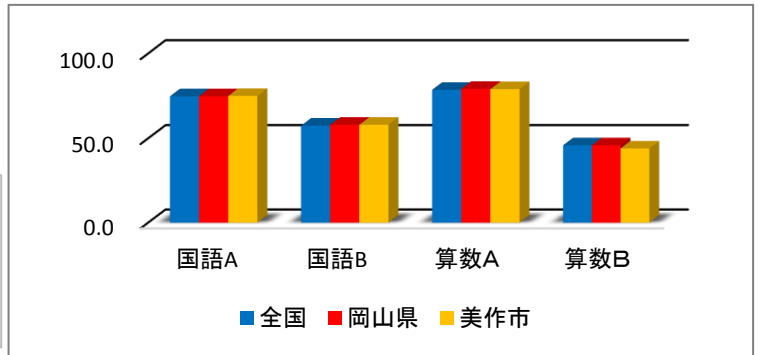
# 平成29年度 全国学力・学習状況調査 小学校版【美作市 結果・概要】

美作市教育委員会 学校教育課

## ○平均正答率(小6)

	国語A	国語B	算数A	算数B
全国	74.8	57.5	78.6	45.9
岡山県	75	58	79	46
美作市	75	58	79	44

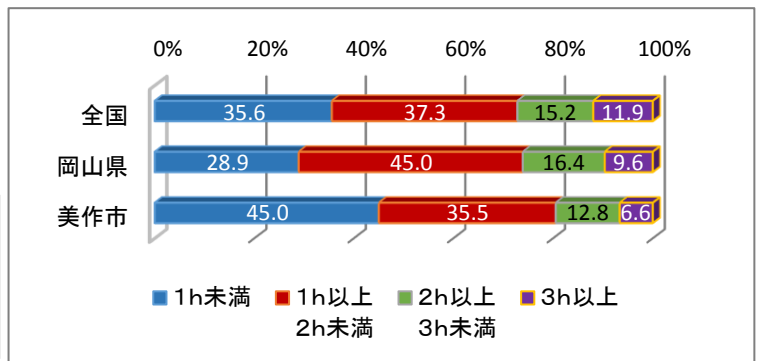
- ・国語A、算数A、国語Bについては、昨年度に続き、全国平均を上回った。
- ・算数Bについては、県及び全国平均を約2ポイント下回った。根拠を示しながら、自分の考えを述べたり説明したりすることを授業や家庭学習で取り組む必要がある。



## ○平日の家庭学習時間(小6)

	1h未満	1h以上 2h未満	2h以上 3h未満	3h以上
全国	35.6	37.3	15.2	11.9
岡山県	28.9	45.0	16.4	9.6
美作市	45.0	35.5	12.8	6.6

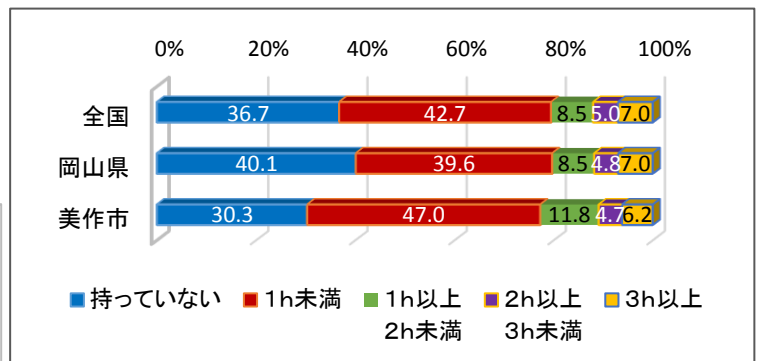
- ・家庭学習時間1時間未満の児童の割合が、昨年度に続き増加傾向である。
- ・昨年度の数値と比較しても、1時間未満の割合が8.5ポイント増えた。家庭学習の方法や時間の使い方について、実態に基づいた取組が必要である。



## ○平日の携帯・スマホの利用時間(小6)

	持っていない	1h未満	1h以上 2h未満	2h以上 3h未満	3h以上
全国	36.7	42.7	8.5	5.0	7.0
岡山県	40.1	39.6	8.5	4.8	7.0
美作市	30.3	47.0	11.8	4.7	6.2

- ・平日に1時間以上利用している児童の割合が22.7ポイントと昨年度に比べ4.2ポイント減少している。
- ・「持っていない」児童の割合が昨年度に比べ、7.8ポイント減少している。家庭との連携した取組を改善しながら継続する必要がある。



## ※全国学力・学習状況調査において明らかになった成果と課題

- ・落ち着いた学習環境づくりと補充学習や問題データベースの活用等、基礎基本の徹底を継続して取り組んだ。その結果、昨年度に続き国語A、算数A、国語Bについては、全国平均を上回っている。
- ・算数Bについては、「知識・理解」を活用することに課題がある。根拠を示しながら自分の考えを書いたり、条件に合わせ友達や先生に説明したりすることを授業や家庭学習で継続的に取り組む必要がある。
- ・中学校区で連携した取組や保護者への周知を行った結果、携帯電話、スマートフォンの利用時間のについて1時間以上利用の割合が減少した。ただ、依然として全国平均を2.2ポイント上回っており、適切な使用方法や使用時間について引き続き課題がある。

## ※課題に応じた改善のポイント

- 授業改善の取組
  - 「岡山型学習指導スタンダード」を基にした授業づくりと言語活動の充実
    - 児童が主体的に根拠を示しながら自分の考えを書いたり、条件に合わせて説明したりする授業づくり
  - ・ユニバーサルデザインを意識した目的と活動が明確な授業づくり
  - ・家庭学習につなげる授業づくり(復習、予習、自主学習等)
- 落ち着いた学習環境づくり
  - ・人間関係づくりを大切に学級集団づくり
  - ・ユニバーサルデザインを意識した学習環境の整備
- 補充学習の充実(朝の学習、放課後学習、問題データベース活用)
- 生活習慣、学習習慣の確立
  - ・家庭学習のスタンダード、家庭学習の手引きに基づいた取組。(例: 自主学習ノートの活用、手本となるノートの紹介等。)
  - ・中学校区で連携した取組(ノーメディアデー・携帯電話、スマートフォンの使用について家庭への啓発等)

4月に実施されました全国学力・学習状況調査について、本校の主な成果や課題及び今後の取組をお知らせいたします。

※結果分析(○できている ●できていない)  
〈学力調査〉

#### 【国語A】

- ことわざの意味の理解や基本的な漢字の読み書きについては、正答率が90%をこえ、安定した力をつけています。
- 手紙の書き方で、後付けに必要な日付・署名・宛名の書く場所について、ほぼ50%の児童が誤答でした。
- 俳句の情景を捉えたり、話し合いの中の共通点や相違点を整理したりする問について、30%の児童が誤答でした。

#### 【算数A】

- 整数の乗法の計算や小数と整数の加法の計算では、100%の正答率でした。
- 加法と乗法が混合した整数と小数の計算について、50%の児童が誤答でした。

〈学習状況調査〉

- 「授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかり伝えている。」の肯定的な回答が全国を上回っています。地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会が多いと感じています。
- 「学校の授業時間以外に、1時間以上勉強をする。」ことや、「テレビを見たりゲームをしたりする時間のルールを家の人と決めている。」児童が少なく、メディアに触れる時間が長いです。

※学校としての対応・目標

- 授業のユニバーサルデザイン化・ICT機器の活用を推進し、どの児童にもわかりやすい授業づくりに努めます。
- 「めあてづくり・自分で考え表現する時間の確保・ペア学習やグループ学習で考えの交流・全体交流での練り上げ・学習のまとめ・授業の振り返り」の授業形態を基本とします。
- 様々な教育活動の中で、「自分の考えや感想を書く」、「お礼文を書く」等の書く活動を積極的に取り入れます。
- 金曜日の放課後に、低学年(1年～3年)は、読書活動の時間を設定、高学年(4年～6年)は、学習サポート(補充学習)に取り組みます。複数の教員で担当し、活用問題・応用問題にチャレンジさせ、思考力や説明する力を伸ばします。
- 家庭学習の定着に向けて、全校での「がんばりカードの取組」やさらに復習や予習を加えた自主学習ノートの取組を進めていきます。

#### 【国語B】

- 目的や意図に応じて引用して書く問いについては、100%の正答率でした。
- 登場人物の相互の関係や心情、場面についての描写を捉えることや目的や意図に応じて適切な言葉遣いで話す問いについては、80%～90%の正答率でした。
- 長文の問題を読みこなした後、問われている意図が十分につかめず、誤答になっている児童がみられました。
- 自分の考えを広げたり深めたり、必要な内容を整理して書いたりする問いについては、60～80%の児童が誤答でした。

#### 【算数B】

- 示された条件をもとに立式したり、割合を解釈して基準量と比較量の関係をあらわしている図を判断する問いは84%以上の正答率でした。
- 割合を比較するという目的に適したグラフを選択する問いでは、90%の児童が誤答でした。
- 数値の求め方と答えを記述する問いでは、80%の児童が誤答でした。問題の問われていることを正しく判断して、考えを説明することに苦手意識があるようです。

※以上のような学校の指導意図をご理解いただき、ご家庭でもご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。